

資料1

香川県内のサル生息状況（平成 24、25 年度調査結果まとめ）

1. 群れ分布

平成 26 年 3 月現在、存在が明らかになった 33 群の一覧とその根拠を表 1 に示し、群れの分布図 1 に示す。表 1 では、過去の調査から類推して与えていた群れ名の他に、分布地域の名称を入れた群れ名（通称）を与え、それを併記した。

表 5-1 平成 26 年 3 月現在香川県内に生息していることが確実な群れ

地域	過去の調査に基づく群れ名	分布地域に基づく群れ名（通称）	発信器装着	行動圏把握		
				群れ追跡	調査員目視	サル出没カレンダー*
東讃岐						
	仮) 東讃A	川股群	×	×	×	検出
	東讃B	虎丸山群	今年度実施	夏・冬	○	×
	東讃C	入野山群	今年度実施	夏・冬	○	検出
	東讃(D)	日下群	×	×	○	検出
	東讃(E)	五名北群	×	×	○	検出
	東讃(F)	五名南群	×	×	○	検出
	東讃G	水主群	昨年度装着 今年度脱落	夏・秋・冬	○	検出
	東讃I	田面群	今年度再装着	夏・秋・冬	○	検出
	東讃(H)	南川北群	×	×	○	検出
	東讃J	南川南群	昨年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	東讃K	石田群	今年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	東讃L	小倉群	今年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	東讃M	長尾名群	今年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	東讃(N)	星越の群れ	×	×	○	×
	東讃O	前山群	今年度実施	夏・冬	○	検出
	東讃P	東鹿庭群	今年度実施	夏・冬	○	検出
	東讃(Q)	津柳北群	×	×	○	検出
	東讃R	鹿庭・城群	今年度実施	夏・冬	○	検出
		大樫の群れ	×	×	○	×
		譲波の群れ	×	×	○	×
		多和の群れ	×	×	×	検出
西讃岐						
	まんのうB	勝浦群	昨年度装着 今年度停泊	夏・秋・冬	○	検出
	まんのうC	中通群	昨年度装着 入のみ可	夏・秋・冬	○	検出
	まんのうE	塩入群	今年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	財田A	財田北群	昨年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	財田B	財田南群	昨年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	山脇	山脇の群れ	×	×	○	×
小豆島						
	寒霞溪 餌場	寒霞溪群	今年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	福田	福田群	今年度実施	秋・冬	○	検出
	太麻山	太麻山群	昨年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	段山A	段山A群	昨年度実施	夏・秋・冬	○	×
	段山B	段山B群	今年度実施	夏・秋・冬	○	検出
	中山	中山群	昨年度実施	夏・秋・冬	○	検出

*地域住民情報のみによる検出

※発信器装着が年度終了間際であったため、他の情報との異同が明らかでない財田？群、大部群については、記載していない。

※※発信器が未装着であるため、第4章以前で、過去調査との群れ分布位置から仮の群れ名を与えて仮称とした群れについては、本章以降は「仮称」を外し、アルファベットを0で囲むこととした。

表 1 及び図 1 に示した群れは、以下のとおり、その行動圏の把握程度が異なる。

- 赤色：発信器を装着し追跡調査を行った群れ、又は調査員の目視及び出没カレンダー調査によって検出された群れ
- 青色：調査員の目視のみによる検出、又は充分数の情報が収集された出没カレンダー調査のみによって検出された群れ

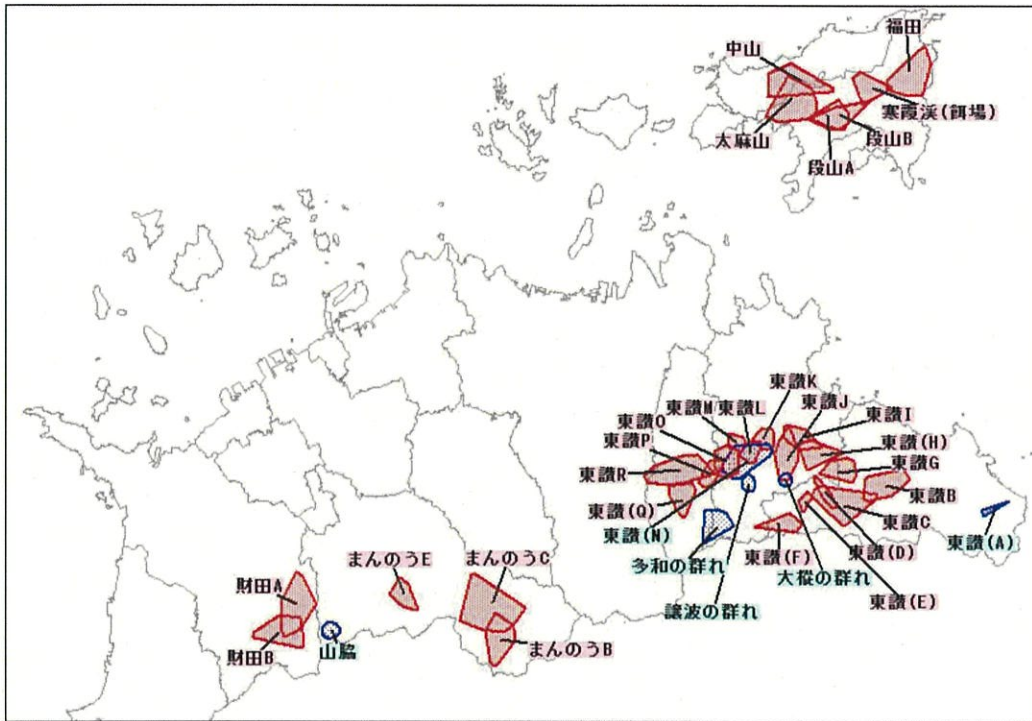


図 5-1 平成 26 年 3 月現在明確な県内の群れ分布図
サル出没カレンダー解析結果を追跡調査データで補正・補完

過去の調査と比較した群れ数を表 2 に示し、地域個体群ごとの推定される個体数を表 3 に示した。

表 2 本調査と過去調査による検出群れ数の比較

	生息が確実な群れ数		本調査による 推定群れ数***
	過去調査*	本調査	
東讃地域個体群	18 群	21 群	21~29 群
西讃地域個体群	8 群	6 群	6~9 群
小豆島地域個体群**	5 群	6 群	6~10 群

* : 東讃および西讃はアンケート調査 (2009、2010)、小豆島は県資料による

** : 銚子溪「お猿の国」の 2 群を含まない

*** : 生息が確実な群れとの異同がはっきりしない情報を最大群れ数とした

表 3 本調査と過去調査による検出群れ数の比較

	個体数が確実な群れ数			推定個体数*
	群れ数	総個体数	平均個体数	
東讃地域個体群	11 群	1,071 頭	97 頭	2,000~2,800 群
西讃地域個体群	5 群	285 頭	57122 頭	350~500 群
小豆島地域個体群	5 群	611 頭	頭	750~1200 群

* : 個体数が判明していない群れに各地域個体群の平均群れ個体数を乗じて算出

個体数が確実な群れは加害性高く、実際の個体数は最低値よりも少ないと考えられる

2. 群れ特性

生息が確実な群れ 27 群（表 1 で赤色の網掛けをした群れ）の群れ特性を表 4 に示す。

表 4 平成 24 年度、25 年度調査で得られた群れ特性情報

地域 個体群	過去の調査に 基づく群れ名	分布地域に基 づく群れ名	暫定 加害レベル	カウント調査から得 られた個体数	出産率(%)	連産率(%)
東讃	東讃B	虎丸山群	-	70~80	-	-
	東讃C	入野山群	6	111	46.9	0.0
	東讃(D)	日下群	5	-	-	-
	東讃(E)	五名北群	5	-	-	-
	東讃(F)	五名南群	4	-	-	-
	東讃G	水主群	6	94	53.3	0.0
	東讃(H)	田面群	6			
	東讃I	南川北群	8	143	106.1	60.6
	東讃J	南川南群	5	132	70.0	20.0
	東讃K	石田群	6	60	52.6	0
	東讃L	小倉群	6	94	35.3	0.0
	東讃M	長尾名群	7	81	69.6	21.7
	東讃O	前山群	6	120~130	33.3	0.0
	東讃P	鹿庭群	5	50	61.5	7.7
	東讃(Q)	津柳北群	6	-	-	-
	東讃R	鹿庭・城群	6	136	41.7	0.0
西讃	まんのうB	勝浦群	7	43	90.0	40.0
	まんのうC	中通群	6	59	53.8	0.0
	まんのうE	塩入群	4	60~70	-	-
	財田A	財田北群	7	56	50.0	0.0
	財田B	財田南群	6	62	94.1	76.5
小豆島	寒霞溪餌場	寒霞溪群	5	320~350	30.8	0.0
	福田	福田群	6	51	10.0	0.0
	太麻山	太麻山群	7	117	28.6	0.0
	段山A	段山A群	-	50~80	54.5	0.0
	段山B	段山B群	4	-	-	-
	中山	中山群	6	43	28.6	0.0

(参考：暫定加害レベル算出根拠)

出沒カレンダー調査で得られた①出沒レベル、②被害レベル、③出現環境レベル、④反応レベルと、行動調査から得られた⑤遊動域内の植生の5つの基準を作成し、5つの基準から総合的に群れの加害レベルを評価した結果と評価基準を以下に示す。

地域 個体群	群れ集団	過去の調査に基づく 群れ名	通称	暫定加害 レベル	出沒レベル		被害確認レベル		出沒環境レベル		サルの反応レベル		市街地農 耕地割合 レベル
					2012	2013	2012	2013	2012	2013	2012	2013	
東 嶺	白鳥大内	東嶺C	入野山群	5	8		2		7		7	5	
	白鳥大内	東嶺(D)	日下群	5	5		4		4		7	7	
	白鳥大内	東嶺(E)	五名北群	5	6		5		5		4	5	
	白鳥大内	東嶺(F)	五名南群	4	5		2		5		4	4	
	さぬき	東嶺G	水主群	6	7	8	6	5	5	6	5	5	
	さぬき	東嶺(H)	田面群	6	8		6			6		4	
	さぬき	東嶺I	南川北群	6	8	10	8	8	7	6	8	8	
	さぬき	東嶺J	南川南群	5	7	5	6	3	5	5	3	6	
	さぬき	東嶺K	石田群	6	8		6		5		4	6	
	さぬき	東嶺L	小倉群	6	6		5		6		5	6	
	さぬき	東嶺M	長尾名群	7	9		8		8		5	7	
	さぬき	東嶺O	前山群	6	7		5		4		6	7	
	高松三木	東嶺P	鹿庭群	5	6		4		5		4	7	
	高松三木	東嶺(Q)	津柳北群	6	5		6		7		7	5	
高松三木	東嶺R	鹿庭・城群	6	6		6		5		6	8		
西 嶺	まんのう	まんのうB	勝浦群	7	9	8	7	7	7	6	8	8	7
	まんのう	まんのうC	中通群	6	9	4	8	3	7	5	7	4	6
	まんのう	まんのうE	塩入群	4	2		2		6		6	3	3
	財田	財田A	財田北群	7	9	4	8	0	7	6	7	4	10
	財田	財田B	財田南群	6	7	5	7	0	8	6	6	7	9
小豆島	小豆島	寒霞渓銀場	寒霞渓群	5	6		7		6		4	2	2
	小豆島	福田	福田群	6	7		6		6		7	4	4
	小豆島	太麻山	太麻山群	7	9	8	8	6	6	7	7	9	9
	小豆島	段山B	段山B群	4	4		0		4		8	4	4
	小豆島	中山	中山群	6	7	5	2	5	5	5	7	6	9

出沒レベルの評価基準

レベル	頻度	基準
1	0.02	2ヶ月に1回程度
2	0.03	1ヶ月に1回程度
3	0.05	20日に1回以上
4	0.04	15日に1回以上
5	0.10	10日に1回以上

被害レベルの評価基準

レベル	頻度	基準
1	0.00	2ヶ月に1回未満
2	0.02	2ヶ月に1回程度
3	0.03	40日に1回以上
4	0.05	20日に1回以上
5	0.04	15日に1回以上

出現環境レベルの基準

レベル	基準
1	山の中から出てこない
2	山の端または農地の端にいる
3	農地の中に出ている
4	家の底・屋根にいる
5	家のなかに入った

サルの反応レベルの基準

レベル	基準
1	人を見ると山に隠れて見えなくなる
2	人が近づくと逃げて隠れるが、また出てくる
3	近づくと逃げるが、見える範囲にいる
4	近づいても逃げない
5	向かってくる(威嚇する等)

市街地農耕地割合レベルの評価基準

レベル	割合
1	0.05未満
2	0.05以上
3	0.07以上
4	0.1以上
5	0.15以上

各群れの出現環境レベルとサルの反応レベルの判定値
 = (レベル最頻値+レベル最大値) / 2 × 2